

博物館 ニュース

Museum
News

楽しく

見て

学ぶ

徳島県立
博物館

No.94

学校給食の

脱脂粉乳



図1 給食用ミルクポット

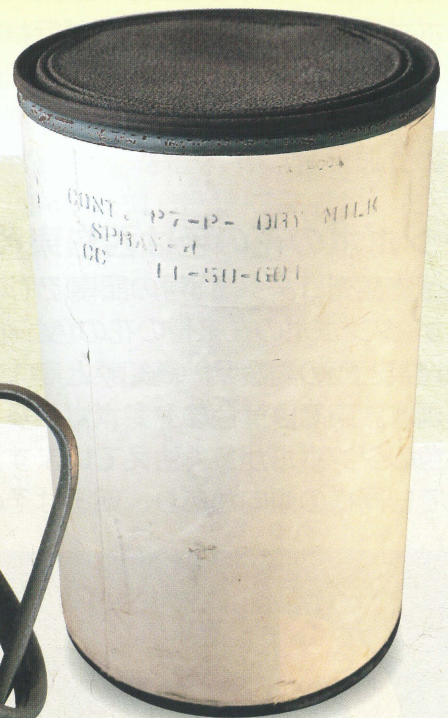


図2 脱脂粉乳ケース

※図1、2はいずれも阿南市立阿波
公方・民俗資料館蔵

脱脂粉乳って知ってる？
おじいちゃんやおばあちゃんに
聞いてみよう

昭和24年にユニセフからの提供を受けて始まった脱脂粉乳によるミルク給食は、昭和50年頃まで継続されていました。湯でといた脱脂粉乳を、ミルクポット（図1）からアルマイト製の器などに注いで飲んでいました。図2の脱脂粉乳ケースの側面には、加熱殺菌して飲むようにという旨の注意書きが貼られています。

企画展「いただきま〜す！一食の生活史と自然誌一」では、学校給食の変遷についても紹介します。

（民俗担当：磯本宏紀）



四国のおもしろい在来タンポポ

小川 誠

はじめに

2009年から2010年にかけて、西日本の19府県で「タンポポ調査・西日本2010」が行われました。これほど広範囲でのタンポポ調査は初めてで、数多くの成果がありました。このたび、2014年から2015年にかけて「タンポポ調査・西日本2015」が行われます。そこで、在来種に注目しながら、四国のタンポポについておもしろいトピックスを紹介してみよう。

タンポポの花の色は西白東黄

博物館ニュース83号の記事でも紹介しましたが、タンポポの在来種の花の色が東の香川県・徳島県と西の愛媛県・高知県とで大きく違います。東では黄色のタンポポが多く、西では白色のタンポポが多く生えています。西日本全体でも同様の傾向があり、四国はその縮図とも

いえます（図1）。これは黄花の中でも個体数の多いカンサイタンポポが関西圏および岡山から四国東部に偏って分布しているからです。

タンポポの種類数は西高東低

在来タンポポの種類数に着目してみましょう。東の香川県・徳島県ではカンサイタンポポ、クシバタンポポ、シロバナタンポポの3種しか在来種は生えていません。一方西の高知県・愛媛県はそれらに加えて、オオズタンポポ（トウカイタンポポ）、ツクシタンポポ、キビシロタンポポ、ヤマザトタンポポなどが生えていて、種類数は西の方が多くなっています。

徳島県のタンポポの課題

先ほど徳島県には在来種が3種しか見つかっていないことを紹介しました。しかし、誤認や見落としの可能性も否定できませんので新しい

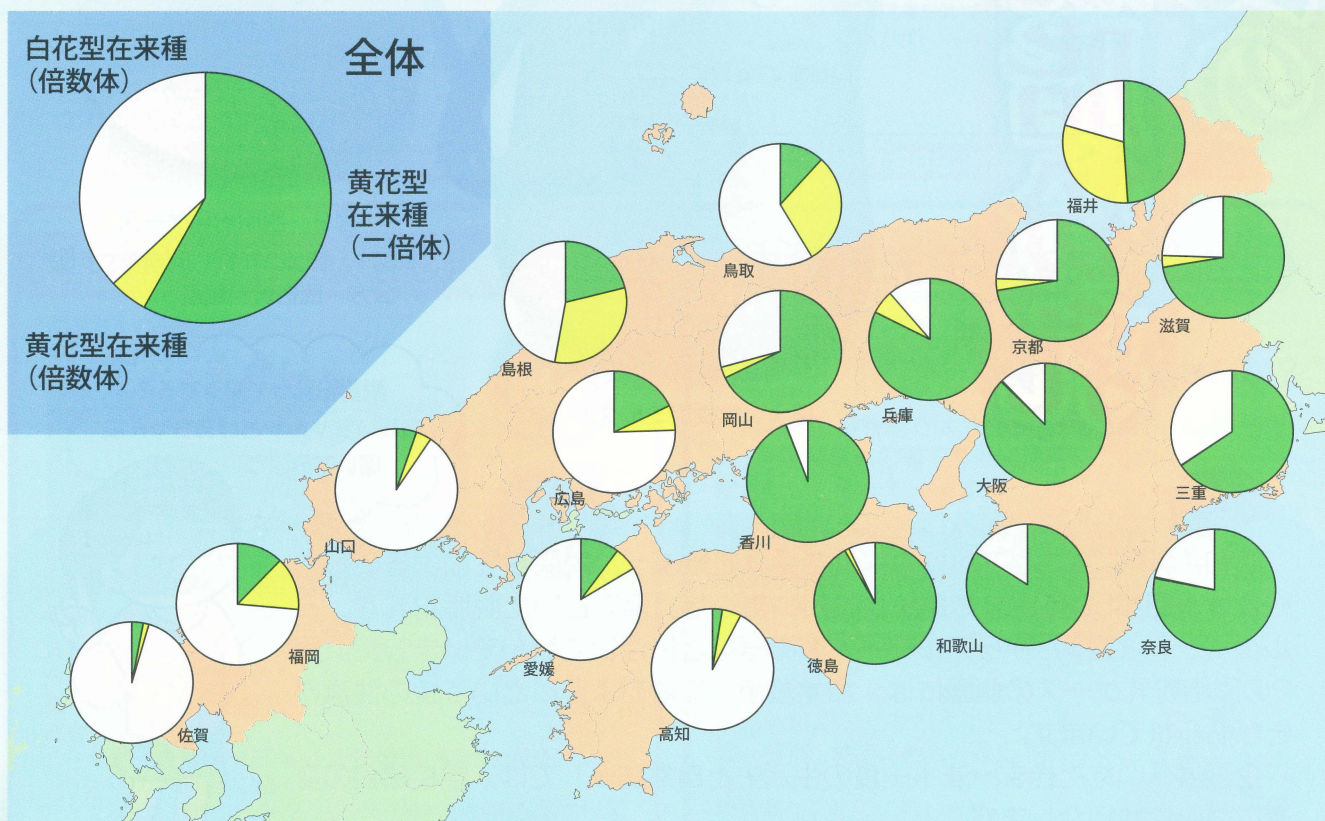


図1 各府県ごとの在来タンポポの割合。「タンポポ調査・西日本2010」の成果にもとづく。



図2 キビシロタンポポ。高知・徳島県境近くの高知県側で見つかった。



図3 ヤマザトタンポポ。愛媛・徳島県境近くの愛媛県側で記録されている。

タンポポが見つかる可能性もあります。徳島県と隣県の県境にはキビシロタンポポ（図2）やヤマザトタンポポ（図3）が見つかっています。これらが徳島県側にも分布していても不思議ではありません。

また、ツクシタンポポは、「タンポポ調査・西日本2010」では高知県で見つかりました。それを受けて愛媛県を調査したところ、愛媛県側にも生えていることがわかりました。このタンポポは他のタンポポと違って、人里よりも山地の茅場（ススキなどの採草地）に生えていて、5月中旬くらいと花期が遅く、花の咲いているのが午前中と短いことからことがわかりました。愛媛県では古い文献では広範囲に分布が記録されていますので、前記の特徴を元にもっと見つかる可能性があります。さらに、そうしたところは今まで注目されていなかったので、徳島県で見つかったもおかしくはありません。



図4 ツクシタンポポ。古い文献では愛媛県では広い範囲に記録がある。

おわりに

タンポポ調査はもともと外来種と在来種の比率に着目し、都市化などの環境を計るために行われてきました。タンポポ調査はなぜ継続的に行われるのでしょうか？—それは人の健康診断に似ています。健康診断で定期的な値を取っていれば、その値に急激な変化が出たら異常を知ることができます。タンポポ調査は身の回りの環境の健康診断といえます。

さらに、「タンポポ調査・西日本2010」では生物多様性の視点が加わりました。場所によって生えている植物の種類が違うことをよく示しています。このように時代に即した課題を持ちながらタンポポ調査は続いています。興味のある方はぜひご参加ください。

（植物担当）

タンポポ調査・西日本2015実施中

子どもから大人まで気軽に参加できます。

調査期間

2014年3月31日～5月31日

2015年3月31日～5月31日

詳しくは

<http://www.museum.tokushima-ec.ed.jp/ogawa/tanpopo2015/>



いただきます～す！

—食の生活史と自然誌—

「食べる」という行為は、人間が生きていく上で欠かすことのできない日常的な行為です。今回の展示では、「食べる」ことについて、食の生活史と自然誌の視点から、食にかかわるあらゆる資料を駆使して展示します。

かつて人びとが使ってきた食の道具と関連する史資料、現在に続く食生活で用いられてきた道具、食材として食べられてきたさまざまな動植物と、その調理法や食べ方について紹介します。さらに、徳島県が誇る食材や食文化、学校給食の歴史などについても注目します。

会期 4月25日(金)～6月8日(日)
会場 博物館1階企画展示室
主催 徳島県立博物館
休館日 毎週月曜日(ただし5月5日(月)は開館、5月7日(水)は休館)

観覧料

一般200円、高校・大学生100円、小・中学生50円
※20名以上の団体は2割引
※土・日・祝日は小・中学生および高校生は無料
※障がい者及びその介助者1名は無料
※高齢者(65歳以上)は半額

図2

クラッカーにのせたヘボ(クロスズメバチの幼虫と蛹)を食べる
[大阪市立自然史博物館提供]

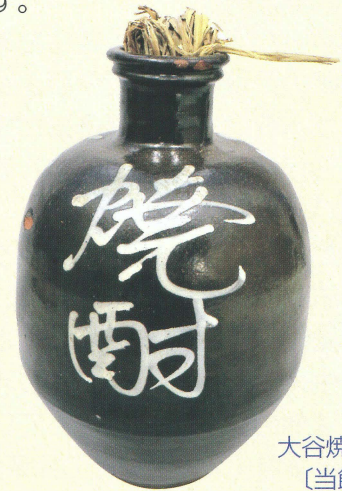


図1 大谷焼徳利
〔当館蔵〕

展示構成

- 1 歴史の中の食(考古資料から見る食、歴史資料から見る食)
- 2 食生活の道具—運搬・貯蔵・調整・調理・飲食—
- 3 自然の恵みをいただきます(植物を食べる、動物を食べる)
- 4 阿波特産の食品
- 5 学校給食



図3 虫歯(縄文時代晩期、徳島市佐古三谷遺跡)〔徳島市教育委員会蔵〕

関連行事

1) 展示解説

4月27日(日) 14:00～15:00 (企画展示室)

2) ところてんをつくろう①

4月29日(火・祝) 10:30～15:15 (出羽島)※要申込み

3) ミュージアムトーク「食の生活史と自然誌のちょっとおもしろい話」

5月3日(土・祝) 13:30～15:00 (講座室)

4) たんぽぽコーヒーでティータイム

5月11日(日) 13:30～15:30 (実習室) ※要申込み

5) 親子で体験! 郷土料理教室

5月18日(日) 10:00～12:30 (実習室) ※要申込み
講師: フードコーディネーター 田中 美和 氏

6) 記念講演会「徳島県の中華そば史」

5月25日(日) 13:30～15:00 (講座室)
講師: 《徳島学》研究家 多喜田 昌裕 氏

7) ところてんをつくろう②

6月1日(日) 13:30～15:30 (実習室)
※4月29日の①とセット

8) 展示解説

6月8日(日) 14:00～15:00 (企画展示室)

シロツブのなかまが発芽しました!

やったあ! 浜辺で拾ったシロツブのなかまの種子が芽を出しました。シロツブは、徳島には生えない暖かい所の植物です。ジャケツイバラ科の樹木で、世界の熱帯～亜熱帯に広く分布します。潮の流れで種子を遠くに運ぶ“海流散布植物”なので、この種子も長い旅の末、四国の浜辺にたどり着いたのでしょう。

種子が芽を出すと、重要なことがわかります。浜辺に漂着した種子は、形や色などから、だいたいこの仲間かなというのはわかるのですが、本当に何という植物か調べるためには、花や葉の特徴を知る必要があります。実は、このシロツブにもハスノミカズラというよく似た近縁種があり、種子だけでは特定が難しいのです。まだ名前を決めることはできませんが、葉の付け根に托葉たくようというものが無いことから、ハスノミ

カズラである可能性も出てきました。

さて、発芽の様子を見てみましょう。種子は2013年7月11日に、高知県の生見海岸いぐみで拾いました。ゆがみがあり、振ると音がします。これはハスノミカズラには無いシロツブの特徴とされます(図1の左)。7月27日に紙ヤスリで傷をつけ水を吸わせました。このなかまの種子は、表面が硬く、そのままでは芽が出ないものが多いのです。驚いたことに、水を吸うと外側の白い皮は“鉛筆の削りくず”のようになって、パラパラと落ちてしまいました(図1の右)。7月31日、芽よりも先に根が伸び出しました。8月7日、ついに芽が出ました。2014年2月現在、暖かい室内で元気に成長中です(図2)。

シロツブのなかまは、世界に100種以上があります。海流散布するものは、それほど多くありませんが、この植物がシロツブでもハスノミカズラでもない、もっと別の植物である可能性もあります。それだけに、種子を播き育てる面白さも大きいのです。皆さんも海岸で種子を拾ったら、ぜひ植えてみてください。(植物担当 茨木靖)



図1 左：漂着したシロツブのなかまの種子。右：水を吸った種子。



図2 すくすくと育つ苗。



阿南市羽ノ浦町 寺田山古墳出土遺物

寺田山古墳は、阿南市羽ノ浦町宮倉にあった古墳です。昨年12月、この古墳から出土した遺物を、発見者である友成徳太郎氏のご家族からご寄贈いただきました。

寺田山古墳は、昭和9(1934)年、ミカン畑の開墾中に発見されました。発見者の友成氏は、郷土史家田所眉東に資料の鑑定を依頼し、古墳の現地調査が行われました。当時の新聞に掲載された田所眉東の見解によると、古墳は横穴式石室を埋葬施設としており、石室(玄室か?)の幅は約4尺(約1.2m)、長さは約5・6尺(約1.5～1.8m)、高さは約5尺(約1.5m)、羨道は長さ約1間(約1.8m)で、自然石で築造されていました(大阪毎日新聞徳島版1934)。

今回ご寄贈いただいた資料は、このときに出土したもので、メノウ製・碧玉製の勾玉、碧玉製管玉、水晶製切子玉、碧玉製棗玉・ガラス製小玉、耳環、といった装身具類(アクセサリー)(図2)と、須恵器杯身(皿)・提瓶(つぼ)(図3)があります。土器の形から、6世紀末～7世紀初めの資料と考えられます。

寺田山古墳は、昭和45年以降の春日野団地造成により、現在は消滅しています。これらの資料は、失われた古墳の情報を伝える貴重なものです。これからも博物館で大切に保存し、展示などで活用していきたいと思えます。

(考古担当 岡本治代)

参考文献

阿波学会考古班1985「羽ノ浦町の考古学的調査」『総合学術調査報告羽ノ浦町』郷土研究発表会紀要第31号、徳島県立図書館。

大阪毎日新聞徳島版1934「羽ノ浦町で珍しい古墳を発見 横穴式、千五百年前のもの 鏃、鏡、銀環なども発掘」『大阪毎日新聞 徳島版』昭和9年4月25日付、一面。

羽ノ浦町誌編さん委員会編1998

『羽ノ浦町誌』歴史編第一巻、羽ノ浦町。



図1 寺田山古墳の立地

国土地理院2万5千分の一地形図「立江」[阿波富岡]を使用

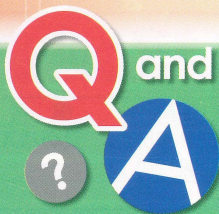


図2 装身具類



図3 須恵器

左：杯身 右：提瓶



いちのみや

一宮ってなんですか？

徳島県にはいくつかあるみたいですが…

徳島県には、「阿波国一宮」と名乗っている大麻比古神社が鳴門市にありますね。また、神山町には上一宮大栗神社、徳島市に一宮神社があるというように、一宮という名が付いている神社が複数確認できます。

一宮は、11世紀末～12世紀初頭に現れるようになり、12世紀後半までには、全国に置られました。諸国それぞれを代表する有力な神社が、その国の守り神とされたもので、秩序の安定を祈願する祭祀の場でした。

時代がくると、郷一宮などと、国一宮をまねた神社が設けられることがありましたが、近世以降には伝統的な神社のランクとして理解されるようになっていきました。今も国一宮を称する神社があるのは、そうした意識があるからです。

阿波における一宮が現れるのは、^{きゅうあん}久安2年(1146)の「河人成俊等問注申詞記」という史料が最初です。一宮の神官と思われる「一宮

司」が見られることから、阿波国一宮が成立していたと考えてよいでしょう。また、史料の舞台が名西郡神山町や徳島市国府町であることから、当時の一宮は鮎喰川流域にあったとみられます。具体的には、現在の上一宮大栗神社(神山町神領)がそうで、同社周辺から徳島市一宮町一帯に広がる社領「一宮」も成立していました。

その後、時期は不明ですが、上一宮が現在の徳島市一宮町にもまつられて、下一宮としての一宮神社が成立すると、ここに国一宮が移されたと考えられています。

一方、『大日本国一宮記』(14世紀成立の原本の訂正・増補本。16世紀に完成)には、阿波国一宮として大麻比古神社が記載されており、南北朝時代以降に再び国一宮が交替したことがうかがえます。

現在、徳島県に複数の「一宮」があるのは、こうした歴史的な背景があるからなのです。

(歴史担当：長谷川賢二)



図1 上一宮大栗神社



図2 一宮神社



図3 大麻比古神社



あちらこちらの「一宮」を訪ねてみたいな

シリーズ名	行事名	実施日	実施時間	申込	対象(定員)	備考
歴史散歩	香川の古墳見学バスツアー	5月25日(日)	9:00~17:00	要	小学生から一般(45)	貸切バス
	阿南富岡まち歩き	6月8日(日)	10:00~12:00	要	小学生から一般(20)	
野外生きものかんさつ	初めての植物かんさつ(春編)	4月20日(日)	10:00~12:00	不要	一般(15)	
	磯の生きものかんさつ	5月17日(土)	13:00~15:00	要	小学生から一般(70)	現地集合
	初めての植物かんさつ(晩春編)	5月17日(土)	13:30~15:30	不要	一般(15)	
	初めての植物かんさつ(梅雨期編)	6月15日(日)	13:30~15:30	不要	一般(15)	
	さがしてみよう! でんでんむし	6月22日(日)	13:30~15:30	要	小学生から一般(20)	
たのしい地学体験教室	眉山の地質見学	4月27日(日)	13:00~16:00	要	小学生から一般(25)	現地集合
	化石をさがそう[淡路島]	5月18日(日)	12:00~16:00	要	小学4年以上(20)	現地集合
	化石のレプリカをつくろう	6月7日(土)	13:30~15:00	要	小学生から一般(25)	材料費100円(大学生:一般)
ミュージアムトーク	古代阿波の瓦職人	6月1日(日)	13:30~14:50	不要	小学生から一般(50)	
ミクロの世界	電子顕微鏡で植物を見よう! ①	6月29日(日)	13:30~15:00	要	小学生から一般(20)	
海部自然文化セミナー	四国遍路と修験道	5月18日(日)	13:30~15:00	不要	小学生から一般(50)	海南文化館
	鳴門海峡海底のナウマンゾウ化石	6月22日(日)	13:30~15:00	不要	小学生から一般(50)	海南文化館
みどりの工作隊	おし花で遊んでみよう	5月28日(水)	10:00~12:00	不要	幼児から一般(50)	
古文書講座	古文書手習い初級編Ⅱ(全8回セットの講座)	4/19(土)・5/17(土)・6/21(土) 7/19(土)・9/20(土)・10/18(土) 11/15(土)・12/20(土)	13:30~15:00	要	一般(20)	申込みは初回時に受付
企画展・特別陳列 関連行事	企画展「いただきま〜す!」展示解説	4月27日(日)	14:00~15:00	不要	小学生から一般	観覧料必要
	ところてんをつくろう①(出羽島)	4月29日(火・祝)	10:30~15:15	要	小学生から一般(25)	②とセット・現地集合
	食の生活史と自然誌のちょっとおもしろい話	5月3日(土・祝)	13:30~15:00	不要	小学生から一般(50)	
	たんぼぼコーヒーでティータイム	5月11日(日)	13:00~16:00	要	小学生から一般(20)	
	親子で体験! 郷土料理教室	5月18日(日)	10:00~12:30	要	小学生から一般(30)	材料費1人500円
	記念講演会「徳島県の中華そば史」	5月25日(日)	13:30~15:00	不要	小学生から一般(50)	
	ところてんをつくろう②	6月1日(日)	13:30~15:30	要	小学生から一般(25)	①とセット
企画展「いただきま〜す!」展示解説	6月8日(日)	14:00~15:00	不要	小学生から一般	観覧料必要	
部門展示関連行事	部門展示「屋根瓦コレクション」展示解説	4月13日(日)	14:00~14:30	不要	小学生から一般	観覧料必要
	部門展示「屋根瓦コレクション」展示解説	6月1日(日)	15:00~15:30	不要	小学生から一般	観覧料必要
	部門展示「カタツムリ展」展示解説	6月22日(日)	11:00~11:30	不要	小学生から一般	観覧料必要
博物館スペシャル	こどもの日フェスティバル	5月5日(月・祝)	9:30~16:00	不要	幼児から一般	

◎小学生が参加する場合は、保護者同伴です。

普及行事のお申し込みについて

- ◎1枚の往復はがきで、1行事のみ申し込むことができます。
- ◎行事日の1ヵ月前から10日前までに必着で右記までお申し込みください。
- ◎返信用はがきの住所・氏名も忘れずに記入してください。
- ◎希望者が多数の場合は抽選とし、抽選結果と詳細は返信葉書でお知らせします。
- ◎原則として、参加費は無料です。

往復はがき記入例

< 往信の表面 >	< 返信の裏面 >	< 返信の表面 >	< 往信の裏面 >
〒770-8070 往信 徳島市八万町 向寺山 徳島県立博物館	何も書かないで ください	〒00000000 返信 あなたの 郵便番号 住所 氏名	1.参加希望の 行事名 2.参加希望者 全員名(学年) 3.住所 4.電話番号

※お問い合わせは、徳島県立博物館へ(電話 088-668-3636)

博物館友の会に入会しませんか!



博物館友の会は、博物館を積極的に利用し、自然や歴史・文化に親しみ、参加・体験しながら子どもから大人まで楽しく学んでいきます。ふるってご入会ください。

■年会費 ・個人会員 2,000円 ・家族会員 3,000円

■会員の特典

- ・年間を通して博物館の常設展、企画展の観覧料が無料になります。
- ・友の会の楽しい行事に参加できます。
- ・友の会の出版物やミュージアムショップの品物を、割引価格で購入できます。
- ・催し物案内、博物館ニュース、会報等が送付されます。 など

くわしくは友の会事務局まで(電話 088-668-3636)

学校の先生方にお知らせ!

学校で 授業で 博物館を 活用してみませんか?

徳島県立博物館では、博物館のもつ資源(もの・情報・人)を学校教育の場で有効に活用していただきたいと考えています。

- 遠足で展示の見学ができます。
- 博物館で授業ができます。
- 博物館資料の貸し出しをしています。
- 出前授業を行っています。

学習内容に関する質問など、何でもお気軽におたずねください。動物、植物、地学、考古、歴史、民俗、美術工芸といった専門分野の学芸員がご相談に応じます。

すべて無料ですので、まずは博物館までお電話ください。

